CLOSE UP クローズアップ

芝居通し、地域のコミュニティ発信

2007年7月21日　淀川区民センターにて

「上手（かみて）をば　上手く（うまく）と読んだ　初芝居」。今年3月、「上手」（客席から舞台に向って右側）という舞台用語を知らないほどの素人たちによる市民劇団「淀川おもろしょ座」の旗揚げ公演が成功裏に終わった。「何か新しいことに挑戦したい」という思いを持って集まってきた、約20人の老若男女。劇団の立役者、淀川区コミュニティスタッフの久保勝利さん（65才）は、そんな彼らとつくる舞台、そこから広がるコミュニティの輪に確かな手応えを感じている。

◇生まれ育った地域に還元◇

十三界隈で生まれ育ち、大学卒業後に兵庫県の映画製作所に入社。製作と脚本部で7年修行し、「これからは映画よりテレビの時代」と先輩に後押しされ、フリーの脚本・演出家となる。「ひょんな縁で入った」という業界でおよそ40年、テレビ番組の制作などに携わってきた。

そろそろ現役を退こうとしていた時期に、地元で1人暮らしをしていた母親が他界。兵庫県から引き上げ、故郷に戻ってきた。さて「何かしなければ」と思った時に淀川区コミュニティ協会が募集している「コミュニティスタッフ」の存在を知った。

「これまでのスキルを生かして、地元に恩返しができる」と、昨年5月からイベント部門で活躍する。そんな中、「子どもさんもお年寄りも一緒になってコミュニティづくりを図っていけるような企画がないか」と淀川区コミュニティ協会から打診され、劇団の立ち上げを提案した。

◇感動の初舞台◇

劇団運営のノウハウは知っていたものの実際に立ち上げるのは初めてのこと。手探りで劇団員を公募し、三世代にわたる約20人が集まった。「みんなでおもろいことしようや」という気持ちを込めて劇団名を決め、昨年12月、「淀川おもろしょ座」が発足した。

ほとんどが全くの素人だが、旗揚げ公演は3ヶ月後。淀川区のイベント「文化のつどい」の中で2回の上演が決定していた。作品には人情物語『あぁ娘よ』（正木邦彦氏作）を選び、週1回のペースで稽古に励んだ。

「素人さんの初舞台にしては台詞が多く、まずそれを覚えてもらうことが大変」。しかも練習には毎回全員が顔をそろえることが難しく、「通し稽古で初めて全員がそろった」という厳しい状況の中で本番がやってきた。

「幕が開いて、舞台袖から客席を見ていた。結構笑っているし、途中で退出してしまう人も意外といなかった。最後まで見ていただけたので、これは良かったなと」。劇団員も一様に「やりきった!」という満足感に満ち溢れていた。

◇各区に「○○区おもろしょ座」を◇

ホッと一息つく間もなく出張公演の話が舞い込み、6月には生野区で再演。「こんなに早く再演できて、この劇団はほんまに幸せもんや」と喜ぶ。すでに10月に旭区、来年3月に淀川区で公演も決定している。

稽古がない時も、月に1度は集まって季刊誌の編集などに取り組んでいる。劇団の主宰者となり忙しくなったが、「みんな水を得た魚のように日に日に輝いていく。新たなコミュニティも生まれている」と嬉々として励む。

「淀川おもろしょ座に触発されて、各区に市民劇団が生まれていったらええなと思う。のろしの上げ役は果たせたかなと思とります」。

（文・江中咲紀／表紙写真・高島悠介）

プロフィール

「淀川おもろしょ座」企画・脚本・演出

久保（くぼ）　勝利（かつとし）さん

1942年大阪市淀川区生まれ。大学卒業後、映画製作所に入社。製作部、脚本部を経て74年に退社。以後、フリーの脚本家・演出家として活躍。主な作品はテレビ番組『こちら海です』（80年～84年）、『宗教の時間』（79年～94年）、『西播磨発サタデー9』（96年～03年）など。現在は淀川区コミュニティスタッフとして「淀川おもろしょ座」の企画・脚本・演出を手掛ける。

問い合わせ先は淀川区コミュニティ協会へ。
メールアドレスは下記のとおり。
yodogawa-center@beach.ocn.ne.jp